港湾振興便り

2019．7

第146号

＊：

目　　次

＊：

1　ポートエッセイ

— 暮らしを楽しみ、地域に活気

イタリアなど南欧に学ぶ —

～日本港湾振興団体連合会会長（元新潟市長） 篠田　昭～

2　トピック

●網走港工事着工100周年記念PR事業（網走港の歴史と魅力を発信）

～市内小学生向けみなと見学会を開催しました～

（北海道開発局　網走開発建設部　網走港湾事務所）

●山形県酒田海洋センター第12回企画展示

「酒田港へのクルーズ船寄港記念　世界のクルーズ船」を開催しました！

（山形県県土整備部港湾事務所）

●大型コンテナ船の2隻同時荷役が可能に

—伏木富山港（新湊地区）国際物流ターミナル延伸整備事業が完成 —

（北陸地方整備局伏木富山港湾事務所）

●第38回横浜開港祭が開催されました！

（関東地方整備局　千葉港湾事務所、京浜港湾事務所、東京湾口航路事務所）

●ベイサイドビーチ坂復興シンポジウムを開催しました。

（広島県空港港湾部　港湾漁港整備課）

●今なお続く豪雨災害で大量に発生した災害土砂の処理作業について、

学生と報道関係者を対象に現地見学会を開催

（呉市産業部・中国地方整備局港湾空港部）

●苅田港で「インフラ映え！ツーリズム」イベント開催！

（福岡県苅田町交通商工課）

●「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」が那覇港へ、「ワールド・ドリーム」が石垣港へ初寄港しました。

（内閣府沖縄総合事務局港湾計画課）

3　お知らせ

◇イベント名：第14回津なぎさまちフェスタ

＊：

１　ポートエッセイ

― 暮らしを楽しみ、地域に活気
イタリアなど南欧に学ぶ　―

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　篠田　昭～

＊：

５月の大型連休明けにイタリアを訪れる機会があった。まったくのプライベートな旅だったが、ローマやナポリなどイタリア各地で目にしたのは、暮らしを楽しみながら、地域の産業を大切にしている姿だった。以前に訪れたミラノや、スペインのバスク地方も含めて、参考になりそうな事例を紹介する。

〈カプリ島に息づく産業〉

ローマから列車で南に向かい、ベスビオ山を望むナポリに着いた。まず、港に向かうと、大型のクルーズ船が３隻、中型船が２隻停泊していた。ナポリ港から快速船で、「青の洞窟」で知られるカプリ島へ向かった。カプリ島は、イタリアでも有数の観光地だが、観光産業以外にも「カプリ・ウォッチ」というブランド時計の産地でもある。デザイン性に優れた手作りの革製サンダルもカプリ名物で、世界の有名人がショッピングに訪れるそうだ。日本の観光地の土産物屋とは一味違うブランドショップが並び、地元が付加価値を取っているという。

「青の洞窟は入口が狭く、波が少しでも高いと入れない」と事前に聞かされていた。訪れた日は好天だったので期待していたが、「きょうは、無理です」とあっさりジャッジされてしまった。美しい海岸線を案内する小型船の旅が代替で用意されているので、がっかり感は薄く、陽光を浴びる船内で地元産レモンを活用したレモン酒をたっぷりと味わった。

〈世界遺産の家屋をホテルに〉

次にアドリア海に近く、トゥルッリと呼ばれる、小さな三角屋根の建物が人気のアルベロベッロに向かった。ここは世界遺産となっている地域だが、そのトゥルッリの内部を近代的に改造し、ホテルとしての活用が進んでいた。知り合いとなった日本人は、違うタイプのトゥルッリを楽しむため連泊するという。典型的観光地だが、イタリアンレストランのレベルも高く、値段も観光地料金ではなかった。ミシュランの星を取っているレストランをはじめ、ほとんどの店は午後８時の開店で、ゆったりと時が流れていた。

〈ミラノとスローフード運動〉

この感覚は、３年半前に訪れた北イタリアと同様だった。あの時は、ミラノで国際博覧会（食の万博）が開かれている機会に北イタリアを訪問した。ミラノに近いピエモンテ州ブラには「食科学大学」があった。ファストフードに対抗する価値を発信しているイタリアのスローフード協会が政府と組んで設立した大学だ。イタリア料理のシェフや経営者らを養成すると共に、イタリア全土のワインを集めた「ワイン銀行」があることは以前にこの欄で紹介した。今回、イタリアを再訪して、改めて感じたことは地元の食材を大切にしていることだ。例えば、イタリアで欠かせないリゾットには、地元の長粒種米が使われる。それもリゾットには古米が向いているそうで、驚くことに最も良い食材とされ、価格も高いのは「７年米」だという。保存方法も違うのだろうが、これでは「古米問題」など起こりようがない。

〈ビルバオの地産池消運動〉

イタリアのスローフード協会と連携し、「美食の街」や「ガストロノミー・ツーリズム（美食旅）」で売り出しているスペイン・バスク地方を訪問した話も以前に紹介した。中心都市・ビルバオでは、素晴らしい食材を生産している地元の農家さんを尊敬し、地元の食材をできる限り料理に使っていく「キロメートル・ゼロ運動」に取り組んでいた。ビルバオでは地元のブドウでつくる白ワイン「チョコリ」の品質を高めるため、ブドウづくりにも厳しい基準をつくっている。素晴らしいシェフを育成するため、京都の名店「菊乃井」に若手シェフ１０人を順次送り込み、今では「人口当たり、最も（ミシュランの）星の多い街」と言われる。いま、ビルバオは新潟市をはじめ、「食自慢」の地域と世界的ネットワークを築いている。

〈「食のまち・新潟」に刺激〉

海外の都市を見て回り、世界一流と評価される地域と付き合う効果は極めて大きい。海外視察の際は、行政だけでなく産学官の混成チームを編成することを特に意識してきた。食の万博に合わせて北イタリアを訪問した際は、新潟県酒造組合や食に関心の深い大学関係者らと同行した。その結果、新潟県産酒の欧州売り込みの核にイタリアがなり、イタリアでも屈指の名門、トリノ大学と新潟の大学が連携協定を締結した。昨年度開学した「新潟食料農業大学」は食科学大学から多くを学んでいる。

ビルバオで進められている「美食の街づくり」には、新潟支社を中心にJR東日本が関心を示し、私どもの視察に合わせてチームを派遣してくれた。現地視察の中で「キロメートル・ゼロ」運動にJR東が共感し、JR新潟駅の駅ビル一角に昨年、「キロメートル・ゼロ」が誕生した。新潟の「食」と「職」を発信する実験拠点「ラボ」の位置づけだ。また、今年10月から12月にかけて開催されるJRグループの誘客イベント「ディスティネーション・キャンペーン」のタイトルは「新潟・庄内ガストロノミー　日本海美食旅」に決まった。これも行政と民間が一緒に海外視察した成果の一つだ。

〈港湾は、世界の知恵の窓口〉

世界から刺激を受け、自らの土地を見つめ直して、まちづくりを進めていきたい。それも海外から多くの観光・ビジネス客が日本を訪れている今、こちらが海外に行くまでもなく、世界の知恵を学ぶことは地元でも可能だ。クルーズ船で賑わう全国各地の港は、その大きな受け入れ窓口となる。

＊：

2　トピック

＊：

●網走港工事着工100周年記念PR事業（網走港の歴史と魅力を発信）

～市内小学生向けみなと見学会を開催しました～

（北海道開発局　網走開発建設部　網走港湾事務所）

今年度、築港工事着工からちょうど100年を迎える網走港では、「網走港工事着工100周年記念PR事業」として様々な取組を行っています。7月3、4日には、この取組の一環として、小学生を対象にした「海上みなと見学会」を開催しました。

見学会では、網走港湾事務所の所有船「はまなす」に乗船し、帽子岩ケーソンドックや小麦の集出荷施設等を見ながら、日々の生活やオホーツクの産業と港との関係、網走港の役割や歴史について学びました。当日は、天候にも恵まれ、事前に応募のあった市内4つの小学校から約110人が参加し、「防波堤の重要性が分かった。」「楽しかった。」等の感想があり、その様子は全道版NHKでも放送されました。

網走開発建設部では、このほかにも分野毎に網走港の歴史を振り返る「歴史シリーズ」を4月から発信、また、7月11日から19日まで市内の公民館オホーツク文化交流センターにて歴史写真パネル展、26日には市民を対象とした海上みなと見学会を実施するなど、網走港の歴史と魅力を広く発信していきます。

港内を航行する「はまなす」

船内の様子

職員による説明

集合記念写真

●山形県酒田海洋センター第12回企画展示

「酒田港へのクルーズ船寄港記念　世界のクルーズ船」をかいさいしました！

（山形県県土整備部港湾事務所）

山形県は、3月19日（火）から6月23日（日）まで、山形県酒田海洋センターで「酒田港へのクルーズ船寄港記念　世界のクルーズ船」の企画展示を国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所の協力のもと、開催しました。

本企画は、多くの方々にクルーズ船への関心や親しみを持っていただくことを目的に実施したもので、ダイヤモンド・プリンセスを始めとする今後寄港する予定のクルーズ船などを展示しました。

海洋センターへ来館した多くの方々に御覧いただき、クルーズ船への関心や親しみを持っていただけたようでした。令和元年度は初寄港の「MSCスプレンディダ」等の外航クルーズ船が5回寄港するなど、計8回のクルーズ船の寄港が予定されており、酒田港の更なる活性化が期待されるところです。

パネル展示の様子

●大型コンテナ船の２隻同時荷役が可能に

—伏木富山港（新湊地区）国際物流ターミナル延伸整備事業が完成 —

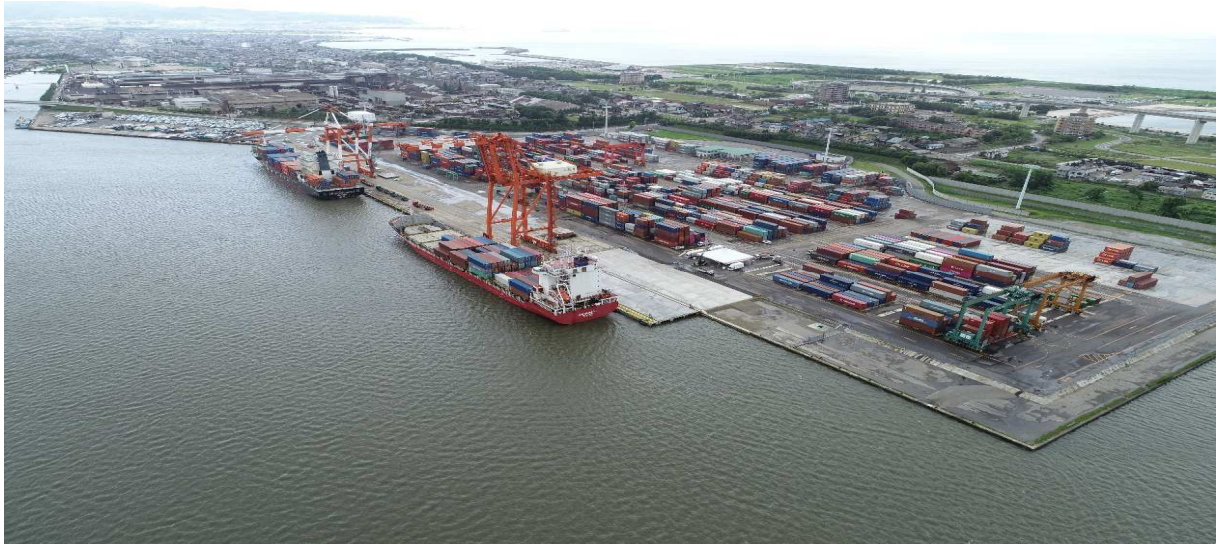
（北陸地方整備局伏木富山港湾事務所）

伏木富山港（新湊地区）国際物流ターミナル延伸整備事業が完成し、６月３０日、同ターミナル内で北陸地方整備局・富山県の共催による完成式典が行われました。

この度の完成に伴って大型コンテナ船の２隻同時荷役が可能となったこと、背後に整備されたふ頭用地と一体的に運用されることでコンテナ取扱能力の拡大による荷役作業の効率化、輸送コストの削減が図られ、地域産業の発展が大きく期待されます。

約８０名が出席した式典は、射水市を拠点に活動している「いみずシビックウィンドオーケストラ」によるオープニングアトラクションで幕を開け、吉岡幹夫北陸地方整備局長（代読：伊藤博信次長）、石井隆一富山県知事の式辞、下司弘之国土交通省港湾局長の挨拶に続いて、橘慶一郎衆議院議員、田畑裕明衆議院議員、中川忠昭富山県議会議長、夏野元志射水市長から祝辞をいただきました。

最後は来賓の方々によるテープカットが行われ完成を祝いました。



式典の当日に接岸した２隻の大型コンテナ船

記念撮影

●第38回横浜開港祭が開催されました！

（関東地方整備局　千葉港湾事務所、京浜港湾事務所、東京湾口航路事務所）

６月１日（土）～２日（日）の２日間、「第38回横浜開港祭」が臨港パーク及びみなとみらい21地区ほかの会場で開催されました。

「横浜開港祭」は、横浜港の開港記念日である6月２日を中心に「開港を祝い、港に感謝しよう」というテーマの下、横浜開港祭協議会（横浜市、横浜商工会議所等）が毎年開催しているもので、38回目となる今年は、「″Thanks to the Port″「開港を祝い、港に感謝しよう」開港160周年　～みんなでつくろう みなとのみらい～」をコンセプトにしております。

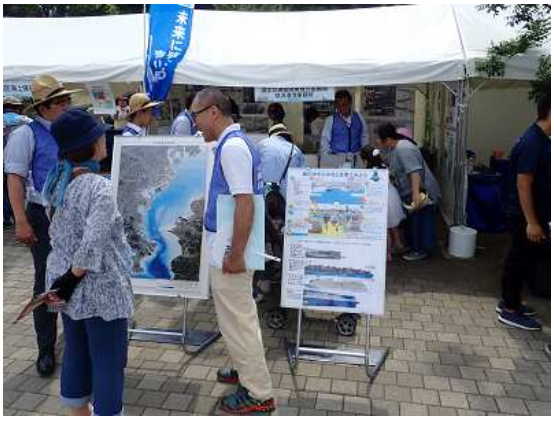
第38回横浜開港祭ポスター

当日は、シーカヤック体験やスタンプラリー、アーティストによるライブステージなど様々なイベントが行われ、多くの方々が来場し大変賑わいました。

２日（日）の夜には花火が打ち上げられ、みなとみらいの夜景を華やかに彩りました。

関東地方整備局では、臨港パーク内の会場に当局で実施している事業を紹介するパネルや千葉港湾事務所所属の清掃兼油回収船「べいくりん」の模型等を展示した他、京浜港湾事務所所属の「たかしまⅡ」乗船会を実施しました。

「たかしまⅡ」の乗船会は2日間で6回実施され、約180人の方にご参加いただきました。



関東地方整備局ブースの様子

「たかしまⅡ」乗船会の様子

２日（日）に行われた官公庁艇パレードには、「べいくりん」及び東京湾口航路事務所所属の「べいさーち」が参加しました。

官公庁艇パレードに参加した「べいくりん」（左）及び「べいさーち」（右）

●ベイサイドビーチ坂復興シンポジウムを開催しました！

（広島県空港港湾部港湾漁港整備課）

広島県坂町に位置する広島港の人工海浜「ベイサイドビーチ坂」は、昨年７月に発生した西日本豪雨災害の発生直後からビーチ利用を休止し、被災した国道の迂回路として、また、災害発生土砂の海上搬出拠点として復旧活動を支えてきました。

この春には道路の復旧などが完了し、夏にはビーチ利用が再開されることを機に、ビーチスポーツの振興や，賑わいの創出などについて議論するシンポジウムを開催しました。

冒頭に中国地方整備局から、災害の発生状況等について報告していただき、引きつづいて行われた、元ビーチバレーボール日本代表の佐伯美香氏らを迎えてのパネルディスカッション、元バレーボール日本代表の川合俊一氏によるトークショーでは、賑わいの創出に向けたさまざまな意見が交わされるとともに、川合俊一氏からは被災者の方々への熱いエールが送られました。

このシンポジウムの開催結果を生かし、ベイサイドビーチ坂、さらには広島港の一層の賑わいづくりに努めて参ります。

中国地方整備局による災害報告

パネルディスカッション

川合俊一氏トークショー

●今なお続く豪雨災害で大量に発生した災害土砂の処理作業について、
学生と報道関係者を対象に現地見学会を開催

（呉市産業部・中国地方整備局港湾空港部）

平成30年7月豪雨により発生した災害土砂の処理については、「災害土砂の撤去・処分に係る海上輸送支援連絡室」を昨年9月より整備局内に設置し、自治体支援を継続しています。

今般、呉市が行っている災害土砂約23万㎥の呉港阿賀マリノポリス地区への仮置きが終了し（令和元年5月）、最終処分場である広島港への海上輸送が本格的に開始になったことから、この度、今なお続いている災害土砂の処理の現状について知ってもらうため、被災地呉市の土木系の学生（呉工業高等専門学校：約100名）と報道関係者を対象に現地見学会を呉市と中国地方整備局の共催で開催しました。

当日の現場見学では、災害土砂の処理には、分別機等による土砂とガレキ類との分別作業が必要であること、また、陸上輸送に比べて、土砂運搬船による海上輸送の方が効率面・環境面で優位であることの理解を深めてもらいました。

見学会に参加した学生たちは、「土砂災害が終わったように見えるけど、ゴミとかが入った土砂がたくさんあって、まだ災害は終わってないなと感じました」などの感想を語っていました。

呉港阿賀マリノポリス地区
災害土砂仮置き場・海上積出し拠点

災害土砂の分別状況を見学

●苅田港で「インフラ映え！ツーリズム」イベント開催！

（福岡県苅田町交通商工課）

福岡県苅田町は、船に乗りながら苅田港にある港湾構造物や橋梁、灯台、工場群などを写真撮影する「インフラ映え！ツーリズム」イベントを5月25日に開催しました。

このイベントは、苅田町が苅田港と港にあるインフラの役割やその魅力を広く知ってもらうために開催したもので、噂の土木応援チーム「デミーとマツ」の出水享氏と国土交通省九州地方整備局苅田港湾事務所、宮崎県県土整備部の岡部章氏が部長を務める「土木写真部」の協力により実現したものです。

子供から大人まで13人が参加し、出水享氏によるインフラに関する解説や、苅田港湾事務所による港湾や港湾工事、港湾構造物に関する説明を受け、船に乗った参加者は土木写真部の指導の下に写真撮影に取り組み、普段は見ることのできない海からの景色に興奮しつつ、北九州空港や空港連絡橋、防波堤、消波ブロック、灯台、工場群、港湾工事などに夢中でシャッターを切っていました。

なお、参加者が撮影した写真は、7月9～14日に苅田町立図書館で開催する「土木写真展」で展示されました。

出水氏は「海のインフラツーリズムは新しい観光になる。苅田港は『インフラ映え』スポットの宝庫。その魅力を多くの人に伝えるために、これからも苅田町に協力したい」と話しました。

「インフラ映え！ツーリズム」イベントの模様

●「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」が那覇港へ、「ワールド・ドリーム」が石垣港へ初寄港！

（内閣府沖縄総合事務局港湾計画課　）

６月２５日、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社所属の最新鋭の大型クルーズ船「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」（168,666トン）が那覇港に初寄港しました。歓迎セレモニーでは、花束贈呈や記念楯の交換を行い、初寄港を歓迎しました。最新設備を搭載した同船は今年４月に完成し、上海を拠点として沖縄を含むアジアショートクルーズを運航しています。また、７月３日、ドリームクルーズ社所属のプレミアムクラス「ワールド・ドリーム」（150,695トン）が石垣港に初寄港し、台湾からの観光客約4,300人が八重山の美しい自然や文化を堪能しました。船内では初寄港を歓迎するセレモニーが行われ、ユーグレナ石垣港離島ターミナルではテンダーボートで上陸した観光客等をエイサーの演舞で歓迎しました。

那覇港に初寄港した「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」

石垣港に初寄港した「ワールド・ドリーム」

＊：

３　お知らせ（みなとのイベント情報）

＊：

◇イベント名：第１４回津なぎさまちフェスタ

【開催日時】 令和元年７月２８日（日） １０時００分～１６時００分

【場　　所】 津なぎさまち内旅客船ターミナル及びその周辺 （三重県津市なぎさまち１－１ほか）
※津なぎさまち周辺にイベント用駐車場はございませんので、ご来場の際は公共交通機関等またはボートレース津臨時駐車場からの無料シャトルバスをご利用ください。

【概　　要】 毎年、津花火大会の翌日に開催されるイベント。ジャズ演奏や大道芸、ダンスパフォーマンスなどのステージイベントの他、各ブースでは魚つかみ体験、ペーパークラフト教室をはじめとした楽しい催しが盛りだくさんです。

【問合せ先】 津なぎさまちイメージアップ事業実行委員会事務局（津市都市計画部交通政策課内）
TEL：０５９－２２９－３１８０

＊：＊：＊：　本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先　：＊：＊：＊＊：＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002 港区愛宕１－３－４
TEL：03-5776-0630 FAX：03-5776-0631
e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：